

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成28年6月16日 (2016.6.16)

【公表番号】特表2013-525786(P2013-525786A)

【公表日】平成25年6月20日 (2013.6.20)

【年通号数】公開・登録公報2013-032

【出願番号】特願2013-506214(P2013-506214)

【国際特許分類】

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

G 0 1 N 33/66 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

G 0 1 N 33/48 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 33/68

G 0 1 N 33/66 A

G 0 1 N 33/50 P

G 0 1 N 33/50 D

G 0 1 N 33/50 T

G 0 1 N 33/48 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年4月12日 (2016.4.12)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 1 】

したがって、1つの局面において、本発明は、対象における疾患の診断のための方法を提供する。本方法は、試料中の分子の基礎レベルまたは基礎状態と、該試料の一部をエキスピボでモジュレーターに接触させた後の該分子の該レベルまたは該状態との差異を決定する段階であって、該差異が、疾患の存在を示す値、疾患の非存在を示す値、または疾患を有するリスクを示す値として表される段階を含む。好ましくは、試料は生存（生）細胞を含む。1つの態様において、分子はタンパク質分子または核酸分子である。別の態様において、分子にはタンパク質、核酸、脂質、糖、炭水化物または代謝産物分子が含まれる。1つの態様において、タンパク質は翻訳後修飾によって修飾されている。別の態様において、翻訳後修飾は、リン酸化、アセチル化、アミド化、メチル化、ニトロシル化、脂肪酸付加、脂質付加、グリコシル化およびユビキチン化からなる群より選択される。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 3 】

別の局面において、本発明は、対象における疾患の予後予測のための方法を提供する。本方法は、試料中の分子の基礎レベルまたは基礎状態と、該試料の一部をエキスピボでモジュレーターに接触させた後の該分子の該レベルまたは該状態との差異を決定する段階であって、値として表される、該分子の基礎レベルまたは基礎状態の該差異が、予後を示す段階を含む。1つの態様において、分子はタンパク質分子または核酸分子である。別の

態様において、分子にはタンパク質、核酸、脂質、糖、炭水化物または代謝産物分子が含まれる。1つの態様において、タンパク質は翻訳後修飾によって修飾されている。別の態様において、翻訳後修飾は、リン酸化、アセチル化、アミド化、メチル化、ニトロシル化、脂肪酸付加、脂質付加、グリコシル化およびユビキチン化からなる群より選択される。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

EGFRモジュレーターには生体分子または低分子が含まれる。生体分子には、450を上回る分子量を有する、あらゆる脂質ならびに単糖、アミノ酸およびヌクレオチドの重合体が含まれる。したがって、生体分子には、例えば、オリゴ糖、多糖、オリゴペプチド、ポリペプチド、ペプチド、タンパク質、オリゴヌクレオチドおよびポリヌクレオチドが含まれる。オリゴヌクレオチドおよびポリヌクレオチドには、例えば、DNAおよびRNAが含まれる。生体分子にはさらに、上記の分子のいずれかの誘導体または組み合わせも含まれる。例えば、生体分子の誘導体には、オリゴペプチド、ポリペプチド、ペプチドおよびタンパク質の脂質およびグリコシル化誘導体が含まれる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

1つの態様において、タンパク質は翻訳後修飾されたタンパク質であり、ここでタンパク質はリン酸化、アセチル化、アミド化、メチル化、ニトロシル化、脂肪酸付加、脂質付加、グリコシル化およびユビキチン化の1つまたは複数によって修飾されている。